**15 『御伽草子集』**

ある日、女が長者の家の前で洗濯をしていたところ、大蛇が現れ長者に手紙を渡すよう頼んだ。次の文はその続きである。

持ちてぬ。①やがて開けて見るに、「三人の娘べ。取らせずは、をも母をも取り殺しⓐてん。そのけの屋には、そこそこの池の前をして、七の家を作りたるに、わが身はそれにはばかるぞ。」と言ひたり。これを父母見て、泣くことかぎりなし。

を呼びて言へば、「あな思ひかけず。死ぬる色なりとも、さることはしはⓑじ。」と言ふ。に言へば、それも同じことに言ふ。三の娘は、一のしにてありければ、泣く泣く呼びて言へば、「父母取らⓒせんよりは、②われこそいかにもならめ。」と言ふ。あはれさかぎりなくて、③泣く泣くだし立つ。

の言ひたりし池の前に家を造りて、出で往ぬ。ただ一人据ゑて、人々帰りぬ。(ア)亥の刻ばかりなるらんと思ふほどに、風さと吹きて、雨はらはらと降り、、ひらひらとして、より波いと高くたつやうに見ゆれば、姫君、生きたるか死にたるかと思ひて、恐ろしさせんなく、あるかなきかにて居たるに、十七間にはばかるほどの蛇来て言ふやう、「われを恐ろしと思ふことなかれ。もし刀や持ちたる。わが切れ。」と言へば、恐ろしさ、しけれども、りにてく切れぬ。(イ)直衣着たる男の、まことに美しきが走り出でて、皮をばかいまとひてに入りて、二人しぬ。⑤恐ろしさも忘れて、語らひ臥しぬ。

④

語　注

設けの屋＝準備のための家。

釣殿＝寝殿造で、東西の対から突き出て池に臨む建物。

十七間の家＝三十メートル四方の家。一間は約一・八メートル。

小唐櫃＝四方に足のついた大型の箱。

問1　波線部(ア)・(イ)の読みを現代仮名遣いで答えよ。また、(ア)は何時ごろを指すか。次から選べ。（2点×3）

ア　午前二時ごろ　　　イ　午前六時ごろ

ウ　午後四時ごろ　　　エ　午後八時ごろ

オ　午後十時ごろ

(ア)〔　　　　　　の　　　　　　〕　(イ)〔　　　　　〕

(ア)の時刻〔　　　〕

問2　二重傍線部ⓐ～ⓒの助動詞の、本文中での意味をそれぞれ次から選び、また、活用形を答えよ。（3点×3）

ア　意志　　イ　推量　　ウ　尊敬　　　　エ　強意

オ　受身　　カ　過去　　キ　打消意志　　ク　使役

　助動詞 意味 活用形

ⓐ　て　〔　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　　〕

ⓑ　じ　〔　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　　〕

ⓒ　せ　〔　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　　〕

問3　傍線部①・③・⑤の動作主をそれぞれ次から選べ。　　（2点×3）

ア　蛇　　　イ　女　　　　ウ　父母　　　エ　大娘

オ　中娘　　カ　三の娘　　キ　男

①〔　　　〕　③〔　　　〕　⑤〔　　　〕

問4　本文中から擬態語を、出てくる順に三語抜き出せ。（5点）

〔　　　　　　　〕→〔　　　　　　　〕→〔　　　　　　　〕

問5　傍線部②・④を口語訳せよ。（7点×2）

②〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

④〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問6　本文の内容と合致しないものを、次から一つ選べ。（10点）

ア　蛇は父母に対して、娘を差し出さなければ父母をも取り殺してしまうぞといった。

イ　蛇の大きさは、十七間の家には入りきらないほどであった。

ウ　蛇の要求に応じたのは、三の娘だけであった。

エ　池の前に作った家に一人でいた娘は、生きた心地もしなかった。

オ　娘が蛇の頭を切ると、そこから直衣を着た美しい男性が走り出てきた。

〔　　〕

練習問題〈未然形接続の助動詞〉

次の傍線部の助動詞の意味を、それぞれ後から選べ。

①　「の雪いかならむ。」と仰せらるれば、 （　　　　）

②　を高く上げたれば、笑わせたまふ。 （　　　　）

③　物のてをせさせばや。 （　　　　）

④　なほあはれがられて、ふるひなき出でたりしこそ、 （　　　　）

⑤　さのみもえ隠させたまはじ。 （　　　　）

⑥　申し出でられぬはいかなるぞ。 （　　　　）

⑦　文に書いては言ふべきにもあらず。 （　　　　）

⑧　はうたて、け近く聞かまほしからず。 （　　　　）

ア　受身　　イ　尊敬

ウ　可能　　エ　使役

オ　打消　　カ　打消推量

キ　推量　　ク　願望

【解答】

問1　(ア)い（の）こく　(イ)のうし　(ア)の時刻＝オ

問2　ⓐエ・未然形　ⓑキ・終止形　ⓒク・未然形

問3　①ウ　③ウ　⑤カ

問4　さと→はらはら（と）→ひらひら（と）

問5　②私がどのようにでもなりましょう。

　　　④直衣を着ている男性で、ほんとうに美しい者（男性）が（切り口から）走り出て、

問6　イ

【練習問題解答+口語訳】

①イ《「香炉峰の雪はどうであろうか。」とおっしゃられたので、》

②イ《御簾を高く巻き上げたところ、お笑いなさる。》

③エ《手当てをさせたい。》

④ア《さらにがられて、身を震わせて泣き出したことが、》

⑤カ《そうそうお隠しなさるまい。》

⑥オ《言い出せないのはどういうことか。》

⑦オ《手紙に書くなどは、とんでもないことだ。》

⑧ク《篳篥はいやだ、そばで聞きたくない。》